

## 平成30年度 南房総市総合教育会議 会議録

1 日 時 平成30年11月29日(木) 午後4時00分開会～午後5時23分閉会

2 場 所 南房総市役所本庁舎 2階第2会議室

3 出席者 市長 石井 裕  
教育長 三幣 貞夫  
教育長職務代理者 小宮 忠  
委員 岡崎 俊明  
委員 石井 美智代

4 事務局 教育次長 石井 喜弘  
参事 鈴木 康代  
教育総務課長 内藤 一浩  
子ども教育課長 水島 孝夫  
生涯学習課長 加藤 勉  
教育総務課課長補佐兼総務係長 佐久間 正博

5 開 会 石井教育次長が開会を宣言

6 市長あいさつ

7 協議・調整事項

(1) 南房総市教育大綱(案)について

事務局佐久間が平成30年9月に第2次南房総市総合計画 基本構想・前期基本構想が策定され、各教育施策においても見直しがされたことに伴い、各教育施策の目標を南房総市教育大綱に反映させ、南房総市教育大綱(案)のとおり策定することについて、資料に基づき説明。

質疑なく、全会一致で承認された。

(2) 南房総市の教育行政について

小宮委員 いろいろな場面がありますが、地域や教員OBの活用ができるのではと思います。スポーツ振興や社会教育の面でも、現場から離れた方々から指導を受けるという機会が得られると、子どもたちの学習の幅が広がっていくのではと思います。文化財の分野では、個人

的にいろいろ経験を積み、その知恵と経験を生かして学校で行っている総合学習も南房総学も文化財マップと合わせて学習すれば、より深いものになってくると思います。また、部活動の面では、例えばブラスバンドなど大勢の人たちと練習したほうが力も発揮できるだろうし、演奏の意欲も湧いてくると思います。ブラスバンド練習会など、地域・学校の枠を超えて実施できればいいなと感じました。

石井市長 生涯学習の人材バンクを広げていければということですね。

加藤生涯学習課長 公民館では「まちの先生」の登録を行っており、また、生涯学習推進員が各地区5～6名おまして、地域の学習に合った公民館講座・教室などを開催しております。

三幣教育長 今度の学習指導要領の改訂の中で、開かれた教育課程というものが2つありまして、1つが、学習内容が地域に開かれていく、地域のものを取り入れていくということ、2つ目は、指導者が教員だけではなく、地域の方などに行ってもらおうというようになっていくと思われま。

鈴木参事 部活動の指導員につきましては、中学校6校中5校に配置されております。子どもが幼いなどの都合により部活動の指導ができないという先生の代わりや、先生の会議がある場合などに来てもらっています。部活動指導員は千葉県では3市町が実施していますが、子どもに対する指導ということで、誰でもいいというものではないことから、人材を見つけることが難しい状況となっております。

三幣教育長 働き方改革の一環で、今年度、夏休みのお盆の期間で学校閉庁日を6日間設けました。冬休みも12月22日から1月6日まで学校閉庁日といたしました。この期間、教員は勤務をしない、組織立った教育活動も原則行わないこととしております。長時間勤務を解消していかなければならないということで、練習の量よりも質を重視し、子どもたちが自主的に練習する体制をつくることへ意識を向けていきたいというねらいがあります。また、東京都に近い学校は、約20年前から教員がすべての部活動の指導をしていない状況です。安房地域においてもそのような流れが来るだろうと考えられます。

岡崎委員 OBの方でスポーツの指導者として最適だと思われても、県から予算が来ればいいのですが、市独自の実施だとお金がかかることですから、その点の難しさもあると思います。

鈴木参事 部活動指導員は1人でも指導することはできます。また、条件付きで引率もできますが、そこまでお任せできる方がなかなかいない状況だということを校長先生からも聞いております。

岡崎委員 高校の体育の教員OBは、部活動に熱心な方もおりますし、種目によったら引き受けてくれる方がいるかもしれません。

石井市長 適切な人がいるのであれば、部活動指導員を活用していくことは良いことだと思います。

岡崎委員 特別支援教育についてですが、支援員を多く採用し、保育所や幼稚園にも配置されていることで、とても成果が上がっていると聞いております。しかし、小学校高学年、中学生、高校生、さらには大人の引きこもりが社会問題にもなってきている中で、特別支援教育はとても必要なことだと思いますので、増やすことがいいことかどうか分かりませんが、減らさないでいただければと思っています。

水島子ども教育課長 幼稚園・小学校・中学校のほかに、保育所、預かり保育室、学童保育所にも配置されております。

三幣教育長 現状は、各保育所・幼稚園・小学校・中学校からの要望の3分の1程度となっております。ただ、近隣の市町よりは多いです。担当の主任指導主事が観察して、緊急度の高いほうから優先していきます。

石井市長 特別支援策に関しては、支援員を減らす考えはございません。

石井委員 『ことしの予算』ですが、とても見やすくなっています。1ページの予算のポイントに、子育て支援・教育の充実があり、子育て世代にとっても力を入れていると感じられます。教育の環境や支援体制はここ何年かとても手厚くなり整備されてきていますので、市や職員の皆様のがんばりにとても感謝しています。

小宮委員 スポーツの面ですが、自転車競技ロードレースの練習をやっている人たちが多く来ているように思います。県内では白子町はテニス、一宮町はサーフィンのように、南房総市は自転車ロードレースをPRして、定期的に来ていただくようなこともできるのではないかと思います。

石井市長 富山地区の旧平群保育所の施設を活用して、サイクリングのお客様を呼び込もうという方々が活動しており、1年を通じて多くの人たちが来てくださっております。そこを拠点として三芳地区や館山市・鴨川市などにも行っているようです。以前から比べればそういう方々が目に入ってくるようになってきました。方向性としては、サイクリングのお客様をさらに増やせればと思っています。

三幣教育長 先月、東京のチャレンジスクールの高校を何校か見に行ってきました。3部制の定時制で、午前4時間、午後4時間、夜間4時間のどこかに在籍し勉強するという一方で、高卒の資格を与えるものです。確かに高卒の資格がないと何にもチャレンジできない状況です。しかし、高卒の資格を取得してもその後は就労できていないということで、これは大変な問題だと思いました。南房総市でも現実問題として発達障害の子どもも少なくはありません。その子たちの就労を考えた時に、例えばナバナの摘み取りなど農業関係の農園に職を得て、そこで作られた作物を優先的に学校給食の食材として買いますというような体制も考えていかな

ければならないと思います。学校教育だけではなく出口を考えなければいけないということが課題だと感じています。全国では職に就かない20代から40代くらいまでの方がかなりいる状況です。その人たちが職に就ければ労働力不足も解消されるのではと思います。

石井市長 労働という点では、例えば左官屋などの職人がどんどんいなくなってきています。左官屋さんの仕事がなくなってしまったのかというところではなくて、実際にやる仕事はあります。ただ、将来においては絶対的に不足するだろうという分野になっていることも確かです。職人という生き方や世界、価値観をリスペクトされないような社会になってしまったことが問題だと思います。

三幣教育長 何十年か前は「勉強はあまり好きじゃないから、俺は手に職をもつ」というように、職人としてのプライドを持っていました。

小宮委員 いわゆる職業高校と呼ばれる高校が、どんどん減ってきているように思われます。

岡崎委員 高校も校名を変え総合学科などにして、その中に「工業」や「農業」を残している状況です。

石井委員 将来が決まっていない子どもたちの選択肢が狭まる感じがあるからでしょうか。

三幣教育長 今、国の教育再生実行会議でも、高校教育のあり方について協議しているところではあります。

## 8 閉 会 石井教育次長が閉会を宣言